

ドバイ通信〜シュクラン

ドバイ日本人学校
綱本 大介
平成24年12月4日

ドキドキいっぱい バラエティーに富んだ イスラム教の国 ド・バ・イ

ドバイでの生活が始まって、8ヶ月が経ちました。着いたばかりのころは、大きなビルを見上げながら歩いたり、文化の違いに戸惑ったりすることも多かったのですが、今は、街の様子や文化にも慣れ、人々の優しさを感じることも増えました。

私は今年、文部科学省からドバイ日本人学校に派遣された、綱本大介と言います。このドバイ通信を通して、県民の皆様にもドバイの魅力をたくさん発信していきたいと思えます。タイトルにありますシュクランとは、アラビア語で「ありがとう」という意味です。常に感謝の気持ちを忘れず、元気に生活していきたいと思えます。

ドバイの街の様子

ドバイと聞いて、どんな街をイメージされますか。砂漠、大きなビル、映画の舞台になった・・・などいろいろあると思えます。私もいろいろなイメージを持ってやってきましたが、すべてにおいて、想像以上でした。思っていたより大都会で、砂漠の大きさに圧倒されました。また、治安の良さにも驚きました。



少し砂漠方面に車を走らせると、このような風景がよく見られます。

古き良きドバイの歴史が感じられる街並みです。

毎日通勤で使う道。300m を超す建物が建ち並んでいます。

高級ホテルもたくさんあります。この白いホテルは7つ星のバージ・アル・アラブ



学校からの帰りは、世界一高い建物バージ・カリファを横に見ながら帰ります。



DJS(Dubai Japanese School)の紹介

～学校の様子～

ドバイ日本人学校 (DJS) は、小学1年生 (G1) から中学3年生 (G9) まで、合わせて139名の児童・生徒が元気に通っています。文部科学省からの派遣教員は、私を含めて12名です。その他、現地採用の英会話、アラビア語の講師、事務、バス運転手など総勢30名以上の職員がいます。

職員の出身は、日本、インド、シリア、スリランカなどいろいろなので、英語でコミュニケーションを図っています。



ピンクの外観で、平屋の建物がDJSです。バージ・カリファもよく見えます。

～児童・生徒の様子～

子ども達は、ほとんどの児童・生徒がスクールバスで登下校します。ドバイ各所に住んでいる子ども達を、8台のバスで送迎します。

登校して、最初の活動はそうじです。そうじは、縦割り班で行います。縦割り班とは、1つの班にG1～G9の子どもが入り、異学年でグループを形成することです。DJSは異学年での関わり合いがとても多く、上学年が下学年に優しく教える姿がよく見られ、うれしく思います。



下校時は、派遣教員みんなで見送ります。



きれいな学校にするために、みんなが真面目にそうじをします。



そうじ以外でも、集会や委員会の企画などで、全校児童・生徒と一緒に関わり合う活動がたくさんあります。

～職員の様子～

私は今年度G5(5年生)を担当しています。また、G4(4年生)とG8(中学2年生)の社会科も担当しています。社会科見学に出かけたり、パソコンや写真、実際の道具などを使って、ドバイと日本の土地の様子や工業などについて、比較したりしながら、しっかりと学力が定着するように心がけています。

また、職員研修を行い、職員がアラビア語を学んだり、文化を知ったりする機会も定期的に設けています。その他に、地元の大学に出かけ、日本の文化を紹介する講義も行っています。



11月に地元の大学で講義を行いました。「日本のまんが」というテーマで、まんがを通して鳥取県の紹介をしました。私が予想した以上に、日本のまんがはよく知られていて、「名探偵コナン」は大人気でした。